

安全意識・技術底上げ

ダイセー
ライフト
大会
全日程、自社で完結

ライフト
ダイセー
倉庫運輸

ダイセー倉庫運輸（吉田 憲三社長、愛知県小牧市）は5日、小牧第二物流センター（同市）でフォークリフト技能競技大会を開き、全国の物流センターから精鋭14選手を集め、日頃培った技術を披露した。

新型コロナウイルス禍でも、自社の現場力の柱となるリフト作業上の安全意識と技術の底上げに向けて開催。今回は教育室と品質安全向上室が主体となり、ディーラーの力を借りずに審査員を社内ですべて準備するなど、初めて全日程を自社で完結させた。

開会にあたり、吉田社長が「当社にとって、トラックとリフトの両競技会は、現場が少しずつ腕を上げていくことで会社の成長が決まる大切なイベント。有事の日本にあって、トラック業界で通用する会社になっていくためには、重要な一歩と考えている」と強調。

その上で、「16年前に社長を引き継いだ時から、会社を強く大きくするには現場力を磨くこと、との思いに変わりは無い。今回は、初めて自社で全て賄う取り組みとなったので、日頃の成果を存分に発揮すると

もに、一つでも進歩に向けた『気付き』を持ち帰って欲しい」と激励した。

競技は選手宣誓の後、始業前点検及び運転技術を審査する実技を開始。事前実施の学科試験の成績と合わせた結果、個人部門は大口

第一物流センターの大卒3年目、岡崎一憲選手が優勝し、2位には同センターの同部署で切磋琢磨した相乗効果が発揮され、新美達也選手が続いた。



競技に挑む選手

閉会式で、田中毅副社長は「今年もコロナ禍の開催となったが、選手の真剣さが伝わり、若い選手が育つなどの成果も感じた。昨今、環境の変化が大きい状況では、活動を積み重ねていくことは非常に難しい。その中で、今年も競技会の新たな1ページを刻めたことに感謝し、今後も競技会の歴史を継続することを誓いたい」と締めくくった。

（梅本誠治）